

六甲カトリック教会 教会報

2020

9

No.585



ウィズコロナということ

原爆 75 年の年がコロナ元年の年になってしまいました。8 月のカトリック平和旬間行事は、コロナのために積極的な活動が制限されるという残念な結果になりました。しかしいまや平和は喫緊の課題、平和旬間が終わっても考え続けなければなりません。ことし 2020 年、世界終末時計の針は 10 年前の 2010 年から 4 分 20 秒進み終末 1 分 40 秒



システナ礼拝堂の天井画「エレミヤ」(ミケランジェロ)

前となり、これまでの最短を示しました。その要素は、中距離核戦力(INF)全廃条約の失効や、米中のあからさまな対立、気候温暖化のさらなる昂進などです。そして新型コロナウイルスの登場。なんということになったのでしょうか。

つい先日まで、曲がりなりにも平和に暮らしていた私たちの日常が脅威にさらされ、人の命が危機に瀕し、経済は落ち込み、数々の不便、不自由を強いられる社会になってしまいました。アルフレド神父様は、平和

旬間中のお説教の中で、「こんな世の中になっているのに何故世界は一致出来ないのか」と仰っていました。ウィズコロナと言うならば、世界の指導者はこの困難な時代を、お互いに知恵を出し合い寄り添いながら進むべきではないでしょうか。そして私たちは、平和旬間で唱えたこの章句をもう一度噛みしめたいと思います。

「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心にとめている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。そのときあなたたちがわたしを呼び、来てわたしに祈り求めるなら、わたしは聞く」(エレミヤ 29 章 11~12 節)

註) 世界終末時計

核戦争などによる人類の終末を午前0時と設定し、その時刻までの残り時間を示す象徴的な時計のこと。冷戦時代のアメリカの科学誌「原子力科学者会報」に登場した概念で、同誌は委員会を設け、時宜に応じてその「時刻」を示している。



今月の聖人ー9月

9月21日は使徒マタイの祝日とされています。福音書の記者、十二使徒の一人です。ローマの徴税請負人という当時、人から嫌われる職業のマタイに、イエスは「私について来なさい」と声をかけ、マタイはすぐさま従った、という聖書の記述があります。マタイはのちにエチオピアで布教中、王の理不尽な命令に背いたという理由で刺客を放たれ殉教します。



「マタイの召命」(カラバッジョ、部分)

16世紀末から17世紀はじめのイタリアの画家カラバッジョの作品「マタイの召命」と「マタイの殉教」ではそれぞれの場面が迫力をもって描かれています。「召命」の絵でマタイは画面中央の髭の男なのか、左隅で金を勘定している若者なのか論争があります。

9月の主日ミサ予定表

日	曜日	時間	地区(ブロック)
5日	土	18時	どなたでも
6日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第2グループ
12日	土	18時	どなたでも
13日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第1グループ
19日	土	18時	どなたでも
20日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第2グループ
26日	土	18時	どなたでも
27日	日	7時30分	どなたでも
	日	10時	第1グループ

【第一グループ】
灘北1・北三田
灘北2・阪神
灘南・神戸西

【第2グループ】
灘西・中央
東灘北1
東灘北2・芦屋
東灘南

教会事務所の勤務シフトについて

現在、教会事務所には黒澤まさみさん、赤木涼子さん、大鶴純子さんの3人が勤務されています。ことし7月からシフトを少し変えて基本的に以下のような体制になりました。

黒澤さん(木、土、日)、赤木さん(金)、大鶴さん(月、火、水、土、日)

勤務時間は9時から17時まで、お昼休みは12時から13時までです。土・日曜日は2人体制ですが、それ以外は1人勤務で、3人フルに勤務する曜日はありません。午前番、午後番の交代勤務や、ミサの時間帯に応じて早出、時間延長などもあります。来客・電話対応、事務、香部屋作業などに加え、コロナ対応のための種々の作業が増えています。

ご協力よろしくお願ひ致します。

◆月日は百代の過客◆

8月に入って、急に過去の体験や見聞が新聞やテレビの報道で数多く声高に報道された。戦後75年という大きな節目に当たるからであり、生き証人たちが老齢化によって、舞台から去っていく状況も踏まえてのことと思われる。その多くは悲惨な惨禍に突然に巻き込まれた方々の語りかけである。私も戦争を実地に体験した者として、いかにも年寄りじみではいるが当時5～7歳の子供に焼き付いた記憶を探ってみようと思う。

グラマンが何を狙うのか、時にけたたましい音をたてて急降下し機銃掃射を浴びせかけていた。神戸と大阪との間に位置する御影という住宅地ではあったが、たびたび空襲警報に悩まされた。遠いと美しい花火のように見えるが、近くなるとザーともものすごい雨降りの音を伴ってB29は焼夷弾をばら撒き、あたり一帯はたちまち灼熱地獄となった。ある時には隣家の防空壕で4人の大人が焼死し、田舎に疎開していた幼い兄妹がたちまち孤児となった。同じ日であったか、実家からほんの100メートルも離れていない防空壕も直撃弾を受けたが、中にいた祖母と妹と私は爆風で外にほり出され奇跡的に助かった。妹のマツゲが焦げ、アルミの弁当箱が大きくゆがみ、直径が20センチほどの大穴が壕の天井に開いていたが、大本營の発表はいつも日本軍の華々しい戦果を称えていたが、戦況は日増しに悪化し巷にはあやふやなデマが飛び交っていた。広島や長崎に原爆が投下されて甚大な被害を被ってから数日後、なぜか母親は全身黒ずくめの長兄の姿を見ながら、これなら特殊爆弾も大丈夫だと安心していた。

終戦の日の記憶はなぜか無いが、深刻な食糧難の日々が訪れた。老いた姑といつも腹を空かせた7人の子供たちを、何とか食べさせるために母は大いに奮闘した。田舎への買い出しはもとより、物々交換で着物類を米穀に代えるなどいつも大忙しだった。大阪の駅周辺にも大勢の戦争孤児が群がり、靴磨きがズラリと並んでいた。配給制度に違反するからなのか不法な買い出しが時に摘発され、没収された米が山のように駅のプラットフォームに積み上げられていた。また何処から運んできたのかトラックの荷台にスイカを満載し、若い衆らが包丁で十六等分して売っていた。人々は食べ終わった皮を大きなドラム缶に投げ込んでい

たが、その僅かな残りカスを乞食たちが争うように武者ぶりついていた。電車や汽車に乗ると、ほとんど決まって傷痍軍人が乗りこみ、「ここは御国を何百里」とアコーディオンで演奏し寄付を求めているが、乗り合わせた人々は意外に冷たかった。

或る日のこと5歳上の長兄が立派なサツマイモを見つけて持ち帰り、弟妹たちも喜び勇んで料理しようと空しく努力した、しかしどうしても食べられない。若い苗を育てた後の種芋は、見てくれはどうであれマズくて決して喰えないのだ。父の知人が夕食の時に訪れて食事を摂ったが、お代わりする客人と母とが飯櫃を互いに引っ張り合っていたのを思い出す。彼女はどうしても、家族の分を確保しなかったのだ。甘いものが極度に不足していたからか、子供たちは何とズルチン・人工甘味料を口許に塗り付けて舐めるほどであった。だからなのか極々まれに甘い大きなスイカを戴くと、それを包丁で等分に切り分けようと努める母の手元を、多くの鋭い眼玉が追いかけて大きい小さいか必死に見定めようとする。あの真剣な眼差しは、今はもうどこにも見られない。私が御影の付属住吉小に入学して間もなくの雨の日、どんなに探しても柄が赤色の雨傘しか残らず、小さな手で包み隠して登校したがワルガキどもにさんざん囃し立てられた。また何の費用かもう忘れたが、うばら会費が毎月クラスごとに徴収され、「忘れました」と担任の先生に言うのが実につらかった。

このような数多くの貧しさの体験こそ、いまの私の生き方や考え方や歩み方を創りあげているにちがいない。戦争のドサクサ・悲喜こもごもの体験こそ、私という人間の有難い原点であり、私の貴重な源泉である。

「わが魂よ、主をほめよ。我が内なるすべてのものよ、その聖なるみ名をほめよ。我が魂よ、主をほめよ。その全ての恵みを心にとめよ。主はあわれみに富み、恵み深く、怒るに遅く、慈しみ豊かでいらせられる」(詩篇103より)。

中村健三 合掌

【 2020年9月予定表 】 ◎は掃除当番地区です。ミサ再開の地区割ではありません。

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
					初金曜日ミサ 7:00, 10:00 ◎東灘北2・芦屋	
6	7	8	9	10	11	12
年間第 23 主日 被造物を大切に する世界祈願日 ◎日曜班		聖マリアの誕生		日本 205 福者殉 教者		
13	14	15	16	17	18	19
年間第 24 主日					◎灘北1・北・三 田	
20	21	22	23	24	25	26
年間第 25 主日	聖マタイ使徒 福音記者			◎定期清掃		
27	28	29	30			
年間第 26 主日 世界難民移住移 動者の日(献金)	聖トマス西と 15 殉教者	聖ミカエル 聖ガ ブリエル 聖ラフ アエル 大天使				

<p>次回10月号の発行は、10月3日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに教会受付へ直接ご持 参いただくか、FAX やメールでお願いいたします。 皆様からの原稿をおまちしております。 (広報部) http://www.rokko-catholic.jp</p>	<p>六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町 3-1-21 電 話 078-851-2846 F A X 078-851-9023 E-メール renraku@rokko-catholic.jp 発行責任者 アルフレド・セゴビア 編 集 広 報 部</p>
--	--